

祈りの友 第206号

2025年11月

「天のビジョンに従う」

児童伝道者への神のご計画を理解する

第2章(前半)きみはわれのまぼろし

サム・ドハティ



「…私は天からの幻に背かず…」
使徒の働き 26章19節

北アイルランドの児童伝道者（元 CEF ヨーロッパ主事）、サム・ドハティ師著「天のビジョンに従う」2章前半をお分かちします。

クリスチャンの奉仕の出発点は「見ること」、つまり神のビジョンを持つことだと語られています。神は私たちに何を見せ、理解させたいと願っておられるのでしょうか。その答えは4つで、以下のようです。

- ◆神ご自身とその主権
- ◆子どもたちとその必要
- ◆福音とその力
- ◆私たち自身とその責任

神に対する私たちのビジョン

私たちがどのように祈り、奉仕し、伝道するかは、私たちが神をどう見ているかに大きく左右されます。だからこそ、神の御姿を知することは極めて重要であり、それが奉仕の第一歩なのです。神は聖書を通してご自身を現されるため、すべてのクリスチャンは聖書を読み、学ぶことが欠かせません。聖書を読む目的は、単に神のお約束やご命令、警告を知ることだけではなく、神がどのようなお方かを深く理解することにあります。聖書を読むときには、「この箇所は神について何を教えているのか？」と自分に問いかける姿勢が大切です。

神のことばを読んで本当に神を見る時、私たちに次第にはっきりと示されてくる神についての三つの大なる真理があります。これらの三つの真理は、私たちのすべての奉仕のための確かな土台となり、揺るがぬ基盤を与えてくれます。

1. 神は主権者だということ

神がすべてを治めておられるという真理を見て、心から理解し、信じることは、信仰者の歩みにおいて大きな転換点となるでしょう。私自身、20年以上前にそれをはっきりと示された瞬間を、今でも忘れることができません。その時私は、車の事故で重傷を負い、病院のベッドで読んだ一冊の本（「ローマ書：贖罪と義認」ロイドジョンズ著）を通して、神の主権に関する深い真理に出会ったのです。その真理が本当に聖書で教えられているのかどうか確認しようと聖書を開いて学び始めました。そして、確かにその真理が聖書の中にあることを発見したのです。

それまで私は長年クリスチャンとして、またフルタイムの働き手、リーダーとして活動してきましたが、この真理を心から理解し、実践的に信じていたわけではありませんでした。理論的には信じていたものの、生活の中でその信仰が深く根づいていたとは言えなかったのです。神が私にご自身の主権に関する新しいビジョンを与え始めたのはあの時でした。それは私の人生と奉仕に大きな変化をもたらす転機となりました。もちろん、これは変化の始まりに過ぎず、私は今も神がどのようなお方かを深く理解しようと努めています。正直に言うと、私は思うような進歩はしていないかもしれませんが、神がご自身を見せてくださったことに心から感謝し神を賛美するのです。

神が主権者であり、すべてを支配しておられると本当に信じるなら、どんな困難

の中でも神の平安を味わうことができます。神が王座に坐しておられるなら、私たちは何を恐れる必要があるでしょうか。

子ども伝道の働きの中で、神は時折、ご自身の主権についての深い気づきを与え、私たちを励ましてくださいます。

妻のセイディと私がアイルランドで CEF の奉仕を始めた頃、私は CEF の出版物で「5 日間クラブ」の記事を読み、自分も何か行動すべきだと感じて近くの町の住宅地で 5 日間クラブを始めることにしました。大変緊張しました。自転車でフランネルグラフのボードを運び、敷物を広げて子どもたちを招いたところ、初日には 20～25 人が集まり、日を追うごとに人数は増えていきました。毎朝、さんびを教え、聖句を暗唱し、イエスさまを救い主として信じるように招きを出し、カウンセリングを希望する子どもたちにも対応しました。子どもたちは良く聞いていましたが、目に見える反応はありませんでした。5 日間クラブが終わる時、私は悲しく、がっかりしていました。神が子どもを救ってくださるために私を導いて下さったのだと確信していたのに何も起こりませんでした。

それから約 10 年後、私はその町の教会で説教をし、礼拝後に長老の家に招かれました。そこが、かつて私がクラブを開催した住宅地であることに気づきましたが、何も言いませんでした。昼食の時、長老はちょうどその週にその団地で起こった悲しい出来事を私に話してくれました。18、19 歳の若い女性が白血病で何年も苦しんだ後に召されたというのです。彼女はとても素晴らしいクリスチャンで、非常に珍しい方法で回心したのだと長老は言いました。数年前に、誰かが団地に来て子ども向けの野外集会を開いたけれど彼女は病気のため参加できず、母親に窓を開

けてもらって聴いていたそうです。その週のある朝、彼女はベッドの上で横になったまま、主イエス・キリストを救い主として信じたというのです。そして、それ以来、彼女は霊的に成長し続けました。「興味深い話だと思いませんか」と長老は言いました。「愛する兄弟」、私は答えました。「どれほど興味深いか、あなたには想像もつかないでしょう。その伝道者は私でした。あの週、私は何も起こらなかつたと思っていたのです。でも今、神が確かに働かれ、そして子どもを救ってくださっていたのだと知りました。」

この出来事は若い児童伝道者にとって、神が主権者であり、結果は神に委ねられるという真理に改めて気づかされた貴重な励ましとなりました。(後半に続く)

祈り

「神さま、私の目を開き、あなたのみことばから、あなたが本当にどのような方であるか、ますます見分け、理解できるように助けてください。」



日本 C E F (日本児童福音伝道協会)

〒311-3434 茨城県小美玉市栗又四ヶ 2421-6
TEL 0299(28)2031 Email : japancef@cef.or.jp
WEB : <https://www.cefjapan.com>
ゆうちょ銀行口座 : 00160-1-59313
他金融機関から :
〇一九(ぜい)イキウ店 (019) 当座 0059313